



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	英語科が考える「深い学び」への取り組み（各教科が考える深い学び）( fulltext )
Author(s)	山城,仁
Citation	教育と研究 / 東京学芸大学附属世田谷中学校(44): 29-32
Issue Date	2017-10
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/148774">http://hdl.handle.net/2309/148774</a>
Publisher	東京学芸大学附属世田谷中学校
Rights	

## 英語科が考える「深い学び」への取り組み

英語科 山城 仁

### 1. 英語科での「21世紀型能力」

現在世の中はさまざまな情報で溢れており、それらの情報を賢く取捨選択し活用していくためには、情報を比較・俯瞰・統合して自分にとって活用可能な知識に加工していくような「情報を統合して必要な知識を生み出す」ことが一人一人に求められています。それらは10個のスキルに分類され、21世紀型スキルとして示しています(表1)。これらは「ある目標を解決するために、他者と共にさまざまなテクノロジーも活用しながら知識を生み出し、またそのプロセスを通じて新たな目標を発見するような知識を生み出し続けるスキル」であり、生徒はそれらのスキルを授業を通して身に付けていくことが必要です。教える側とすれば、「情報を統合して必要な知識を生み出す」ために、それぞれの教科に適切な内容は何かを再考し、伝統的な学問分野と現代的なその双方について優先的に学ぶべきことが反映されたものにカリキュラムを修正していかなければなりません。そこで、2017年2月に出された中学校学習指導要領

(案)における目標で挙げられている観点を基に、カリキュラムを修正し、授業を実践するための手掛かりを検討することとしました。

表1 21世紀型スキル

思考の方法	1. 創造性とイノベーション 2. 批判的思考、問題解決、意思決定 3. 学び方の学習、メタ認知
働く方法	4. コミュニケーション 5. コラボレーション (チームワーク)
働くためのツール	6. 情報リテラシー 7. ICTリテラシー
世界の中で生きる	8. 地域とグローバルのよい市民であること (シチズンシップ) 9. 人生とキャリア発達 10. 個人の責任と社会的責任 (異文化理解と異文化適応能力を含む)

- (1)外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを

活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

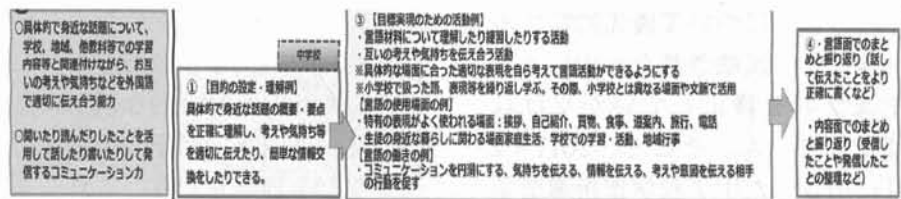
(3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

上記の観点の中には理解することが中心の学習観点、アウトプットすることが中心の学習観点の要素が現されています。授業を組み立てる上で必要になることはこれらをただ取り入れて授業を展開すればよいのではなく、これらのバランスや授業における活動の順序、展開内容を工夫し、目的に応じて取捨選択しながら取り入れることが必要です。生徒が聞くこと・読むことを通して得た知識を適切に理解し、考えや思いを周りと協議したり、検討したりしながら意思伝達することができる授業のあり方についてさらに深めていかなければなりません。それは、アウトプットへの過程で上述したスキルが活用でき、より豊かでより広い考えを持たせることができ

る授業の具体を検討することです。その過程で活動をどのように取り入れ、展開していくべきかを検討するため、「主体的・対話的で深い学び」について次に述べたいと思います。

## 2. 英語科が考える深い学び

本校では、New Crown English Series (三省堂)を用いて授業を行っています。New Crown English Seriesでは各単元においてテーマが設定されており、そのテーマについて登場人物がペアやグループで会話をしたり、自分の思いや考えなどを表現したりしています。また、単元のReadセクションでは、130~300語の英文でテーマに関する英文が書かれています。それぞれの単元には目標文法項目が設定されており、生徒は単元のテーマと目標文法項目について理解を深めていく学習に取り組んでいます。下の図は、授業の展開例を簡単に表しているものです。図中にもあるように、単元の目標として、具体的に身近な話題の概要・要点を正確に理解し、考えや気持ち等を適切に伝えたり、

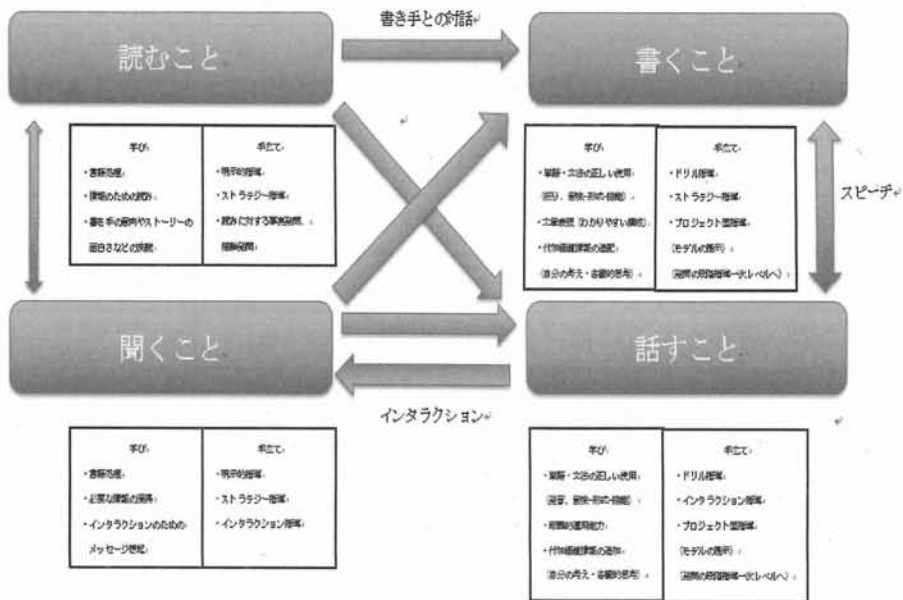


簡単な情報交換をしたりできることが挙げられます。英語科として検討しなければならない課題は、その展開においてどのような活動をどのような順序でどのように取り組ませるかだと考えます。本校英語科では、以下のようなことができる生徒を育成するための授業展開を検討しています。

- ①学習しているテーマについて、自分の考えを持つことができる。
- ②自分の考えに加えて客観性も持たせながら英文を書いたり、話したりすることができる。
- ③英文を読んだり、聞いたりすることを通して相手の考えや意見を理解することができる。

- ④自分の考えや意見と相手の考えや意見を統合して考えを深めることができる。
- ⑤英語で意思疎通ができるようになるための手立てを工夫しながら学習に取り組むことができる。上述した観点①～⑤の内容を授業の活動として具現化し、21世紀型スキルを活用させながらより深く学ばせるための活動例は以下のようなものが挙げられます。

- ・場面や心情などを読みとりながら音読に取り組む。
- ・読んだり聞いたりした英文の内容に関する質問を自ら考える。
- ・読んだり聞いたりした英文の内容に関して、具体的な場面をイメージしたり、深く推測したり



---

する。

- ・ Performance、Presentationの手立てを工夫し、考えを相手にわかりやすく伝える。
- ・ 反復する学習、理解を深める学習、産出する学習などに取り組み、その内容を工夫する。

それらをまとめたものを以下の図で表しました。生徒は読むこと、聞くことなどのインプットをもとに、内容を理解するとともに、語彙や文法事項について学習していきます。それらを活用し単元のテーマなどについて書いたり、話したりするアウトプットへとつなげていきます。それぞれの技能で教える側として求めていることは、一つひとつの技能においてどれくらい深く学んでいるか、という点です。

「読むこと」を例にとって挙げると、生徒は学習する段階として、書かれている語彙や英文の意味について理解することができるレベルから、内容の情報、つまりは事実を理解することができるレベルへと理解が深めていきます。さらに深い理解をするには、生徒は書き手の意図をそこに見出したり、書かれている事実がなぜそうなるのかを推測したり、背景知識を活用したりして内容を解釈していくことが必要です。そのレベルまで「読むこと」の理解を深める

ことで、「書くこと」や「話すこと」においても深いレベルで技能を統合した活動ができるのではないかと考えています。

### 3. おわりに

英語科としての「深い学び」を実現するに当たり、以下の点についてさらに検討する必要があると考えています。

- ・ 単元を通して生徒に学びとらせたいことは何だろうか。
- ・ 自分の考えを持ち寄り、意見をまとめ、次なる課題へどのようにつなげていくか。
- ・ 相手にわかりやすく伝えるための手立てをどのように指導していくか。

英語科では生徒が内容をさらに深く理解し、学んだことや考えたことをアウトプットできるようになるための活動を、学びを深めながら、そして楽しみながら力を伸ばしていけるよう創造していきたいと考えています。